

【要約版】

滋賀県立琵琶湖博物館協議会

令和5年度第2回会議

日 時 令和6年（2024年）1月30日（火）

14時00分～16時30分

場 所 琵琶湖博物館1階セミナー室

会 議 次 第

1 開 会

2 議 題

- (1) 滋賀県立琵琶湖博物館第三次中長期基本計画に基づく
重点事業計画の見直しについて

3 報告事項

- (1) 水族展示室の水槽破損事故について

4 その他

5 閉 会

1 開 会

- 途中退任された委員の後任委員の紹介
- 定足数と会議成立の報告

2 議 題

(1) 滋賀県立琵琶湖博物館第三次中長期基本計画に基づく

重点事業計画の見直しについて

○事務局より説明

○質疑応答

<事業目標 1 >

- ・ 1－3 研究備品の調達計画の見直し、調査船の更新について
→ (回答) 調査船は、コロナの関係で船不足が生じており、6年先まで調達ができない状況。船以外の調達するべきものを精査し直す予定。水位低下による調査船の不具合は生じていない。

<事業目標 2 >

- ・ 2－2 標本・資料整理に関する DX 事業の予算確保状況について
→ (回答) 「デジタル田園都市構想都市国家構想交付金」という国の交付金で約5千万円ついており、電子図鑑については年度末に完成公開予定。
- ・ 2－3 障害のある子たちの学びとしての活用について
→ (回答) なかなか難しいところでアイデアをいただきたい。
→ (委員意見) 盲学校などとやりとりをすればよい。

<事業目標 3 >

- ・ 「びわ博フェス」について、参加者の交流の場ができたことは高く評価
→ (回答) とても励みになる。毎年試行錯誤しながら今後もバージョンアップさせていきたい。

<事業目標 4 >

- ・ 「びわ博ナビ」から「ポケット学芸員」に変わって質が向上した。広報や館内での声かけなどをもっと行ってはどうか。
→ (回答) 音声ガイドシステムについては、言語対応が以前の半分以下の状態のため広報ができていない。今後努力して少しでも便利に使えるようにしていきたい。
- ・ 「展示の成長」について、リニューアル後の小規模、中規模の内容更新についての事例を知りたい。
→ (回答) A 展示室と B 展示室で期間限定の展示を実施。A 展示室では、在野の研究者のコレクション紹介、B 展示室の「学芸員のこだわり展示」では、収蔵資料のお披露目や研究成果発表のような場として展示している。

<事業目標 3・4 共通>

- ・「びわ博フェス」や「ポケット学芸員」という単語はメディアにも魅力的。しかしあまり知られていないので発信力強化をしてはどうか。
 - （回答）当館の広報力は弱いと感じている。SNS も含め、資料提供など出せる情報は出しているが、話題に上らないのが悩みで、お力をお貸しいただければありがたい。
 - （委員意見）特化した出し方や何かちょっと絞った広報をしてみてもどうか。
- ・広報について、ネットに上げるだけでなく、学びの場や研修などで実際に人と人が出会うことで生まれるものや広がりを目を向けてほしい。
 - （回答）博物館の設置理念も含め、これまで30年弱一番大事にしているのは、博物館での交流。そのための展示交流員であり、学習と教育も含んだ全体としての交流という事業として進めている。今回の水槽破損でも、皆さんからの琵琶湖博物館に対する期待や思いをいただいているところで、そういった部分をもっと大事にしているという発信をしていきたい。
 - （回答）学校団体・地域連携という事業の中で、企画段階から参画していただくということを昨年度から模索。環境学習関連で、「淡海こどもエコクラブ」で交流会という形で直接意見交換という場と機会を設けている。
- ・子どもさんが博物館に来て目を輝かせている映像や記録などをもっと発信し、こんな出会いやこんな喜びがあったことを強調していただきたい。その際にネットを上手に使うてはどうか。
 - （回答）展示交流員の役割について、展示交流員は来館者と交流をして、来館者からいろいろと教えてもらい、博物館のことについて、一緒に語ったり学んだりするという位置づけ。過去にどんな交流があったかということ「交流ノート」という記録として残している。利用される方や我々にとっても記憶に残る博物館という位置づけで発信していきたい。

<事業目標 5>

- ・ウェブサイトのアクセス解析について。
 - （回答）アクセス解析は Google 解析のものを当面使用。閲覧者がどういうことを望んでいるのか、どういうページのたどり方をしているのかなどを見ることによって、使いやすいページづくりを目指している。
- クラウドファンディング業者とも定期的な打合せを行い、解析結果を得ている。参考にしたい。

<事業目標 6>

- ・大規模修繕への予算化は予定しているのか、水槽再生にクラウドファンディングを行うのは、厳しい言い方をすると、世間的には、博物館や滋賀県として恥ずかしいこと。
 - （回答）大規模修繕は「長寿命化」という修繕計画を立てて、県全体で予算措置をしている。長寿命化の対象とならない修繕等については、調査を行い計画的な改修につなげていきたい。

- ・今回の事故でで水槽のデータを蓄積し、リスクを探りながら安心感を発信してほしい。
→ (回答) 今回の破損事故であらためて水槽全体の安全確認をして水を抜いているところがある。日々の中で確認しながら、皆様に安全で安心していただける環境をつくっていききたい。
- ・クラウドファンディングは、資金集め(ファンド)だけでなくファンを増やすという意味もある。経過を見せみんなで作り上げていくことが大事。
→ (回答) クラウドファンディングについては、ファンを増やすという形につながっている。ただ、頼りっぱなしではいけないので、今後考えていく必要がある。
- ・故障について、「故障中」の表示は怠慢なイメージで、「調整中」や「しばらくお待ちください」など経過が見える表示をしては。
→ (回答) 表示は「調整中」を基本に使用している。現在「調整中」の表示も見直している。館内スタッフですぐに直せる箇所とそうでない箇所によって状況が異なるが、基本的にはすぐに対応するようにしている。
- ・障害者用トイレを使用してみしてほしい。使わないと使い勝手がわからない。設備が古くてもソフト対応をしていただけたらよい。
→ (回答) ご指摘の場所かどうか不明だが、たしかに使いにくいところがあり、改善したところがある。
- ・「ぬり絵コーナー」について、ホームページでアップしてみてもどうか。
- ・「ものすごい図鑑(NHK for Schoolのコンテンツ)」は、子どもがすごく興味を持ってずっと見ているが、聞くと、学校の授業の中で先生が教材として使用されたとのこと。博物館の3Dコンテンツも授業で取り入れてもらえればよいのでは。
→ (回答) 上記の2件はご意見として承った。

○今後のスケジュール

- ・今回の議論を踏まえて、令和4年度事業評価として博物館ページで公開する。
- ・次回の協議会は6～7月で日程調整を行う。その場で内部評価を説明の上、外部評価をしていただく予定。
- ・2026年度以降の5年間の計画に関して来年度から議論を予定。

3 報告事項

(1) 水族展示室の水槽破損事故について

○資料4に基づき事務局より説明

○<質疑応答>

- ・クラウドファンディングはよしあしで、県の姿勢が問われる。ファンを増やすということはよいが、頼りっぱなしではいけないことなど、継続的に考えていく必要があると思うが、館長や副館長の意見を聞きたい。

→ (回答: 館長) アクリルの取り替えについて県補正予算で手当て済みだが、「みんなで作る水族展示」ということをこの機会にやりたいと思い、2千人ほどの皆様から何かお手伝いできないかという声もあり、クラウドファンディングを実施した。

実施の結果、第2目標の1千万円を超えることができ、応援コメントもありがたく、寄附のためだけではなく、やはり皆様に知っていただく効果もあったと思う。次のピワコオオナマズ水槽やコアユ水槽では経過を可能な範囲で示しながら発信していきたい。

→ (回答: 梶副館長) クラウドファンディングには抵抗があったが、たくさんの方々からのお声があり、イラスト募集もあわせて盛り上げて、クラウドファンディングを検討した。今年度の約4,500万円については、予算措置がある中でクラウドファンディングを実施したが、できる限り皆さんのお力もいただきながら一緒に進めていきたいと考えた。

本県でうまくいったクラウドファンディング事例がないが、今回は県庁からの反響がある。ノウハウや苦労した点について共有したいと思うが、安易にクラウドファンディングに乗るのは抵抗がある。公立施設として運営しているという点を踏まえながら、皆様にご支援いただきたいという趣旨を伝えて、真摯に取組をお見せしたい。

今回も、ウェブサイトで活動報告を出しており、博物館の運営の一端をお見せするようになっている。来年度はさらに大きな額のクラウドファンディングを実施したいので、もっと理解を得られるような取組として出していきたい。

→ (回答: 亀田副館長) クラウドファンディングは、単なる資金集めだけではなく、博物館をアピールするチャンスとなっている。皆さんに応援いただいて、一緒につくっていく機会を作れたという意味で非常によかったと思う。メッセージから、博物館のことを思い出してくださった方と新たに博物館を知っていただいた方の方々のいるのがわかる。当初から、単に寄附をいただくというだけでなく、琵琶湖博物館は何を目的としてどんな活動をしているところなのかという基本的なことも紹介しながら活動報告やメッセージを作ってきたので、歴史や他の生きものの展示のツアーなど、水族展示に係ること以外も含めてリターンを用意した。博物館全体で一丸となって紹介しながら支援をいただくということを目指してきた。今後もいろいろな形でご支援をいただきながら、博物館活動を進めていきたい。

- ・「事故原因調査報告書」の中の「水族展示安全度リスト」を活用して、危険度毎に経過を見せていけば、みんなが安心して応援したり見守れる形になるのではないかな。

→ (回答) ご意見のとおり、全体像を情報共有しながら、みんなで進んでいくという機運を高めて進めたい。

- ・外部評価で、「クラウドファンディングで呼びかけるのもいいのでは」と書いたところ、クラウドファンディングを実施され多くの方のコメントもいただけてほっとしている。「よみがえれ! 日本の淡水魚」コーナーも直すのか。

→ (回答) ネクストゴールで設定している。

4 その他

・能登半島の水族館等の被災状況について。

→（回答）「のとじま水族館」が被災し、日本中の水族館が分担して飼育生物を引き受けることとなったが、当館は淡水のみなので受け入れはできない。近畿の多くの水族館では協力している。

5 閉会

以 上